



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来（沖縄要人来日、訪米）（長嶺琉球立法院議長四〇.二.一〇   外務省外交史料館レファレンス番号：H220419）
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(2)No.1   公開日：平成22年11月26日   外務省外交史料館管理番号：A'.3.0.0.7-1(16)   CD・DVD番号：H22-004
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43314">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43314</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

長山欽琉球之法院試長

四〇二一〇

秘

アメリカ局長  
参事  
北米課長

琉球立法院長嶺議長の

大臣来訪の件

40.2.10  
米、北

(1) 琉球 本年 1 月 14 日より米陸軍の招  
待により渡米中であつた 琉球立法  
院長 嶺 議長は、2 月 9 日 東京に  
帰着した 趣きをもつて、2 月 10 日午  
後 4 時 05 分、挨拶のため <sup>大臣を</sup> 来訪  
約 10 分間 会談した。

(2) 先が長嶺議長より訪米の模様を  
ついで 次の如く述べた。

「自分は、口答省、国防省、予算局、議  
会その他 沖縄関係の各機関を

GA-4

外務省

訪問したが、議会筋を含む出来るだけ広

範囲の話を聞くことに努めたが、

各方面とも今後の米国の沖縄施策は

今回の佐藤、ビュソン共同声明の線に

沿つて行わざるべきであるとの意見で、

まことに意を強くした。

アラスカにも会った。

米国の対沖縄援助の増額について、

同氏は、現に沖縄で立案中の経済

開発の長期計画がまとまる頃、それ

を見合ふための援助枠の引き上げ <sup>を検討</sup>

が <sup>おそれ</sup> 或いは可能 <sup>と云ふ</sup> ではないかと考える旨

述べた。

自治権の拡大、行政上の諸般の問題の

改善案については、日本側から

積極的意見を出すべきを

GA-4

外務省

期待する旨述べた。

(3) これに対し、大屋より、最近の日米  
仲立問題に際し  
関係は、<sup>相互の立場を</sup>理解し合う、融け合う、

とゆう気分が強くなった、まことに

結構と思つてゐる。

しかし、<sup>か</sup>外交案件が先角新聞  
<sup>をんげんをききながら</sup>  
も、~~この~~ <sup>また</sup> ~~新聞も~~

先走つて不正確な憶測記事

を ~~書きだ~~ <sup>か</sup> する。このよつたことは

外交上決して利益があるとは言

難い。<sup>下手を打つと対岸にかつがぬ</sup>このよつては、出来る話も出来

ないから、快があるから、お互に留

意しよう、と述べた。